藤女子大学
藤女子短期大学

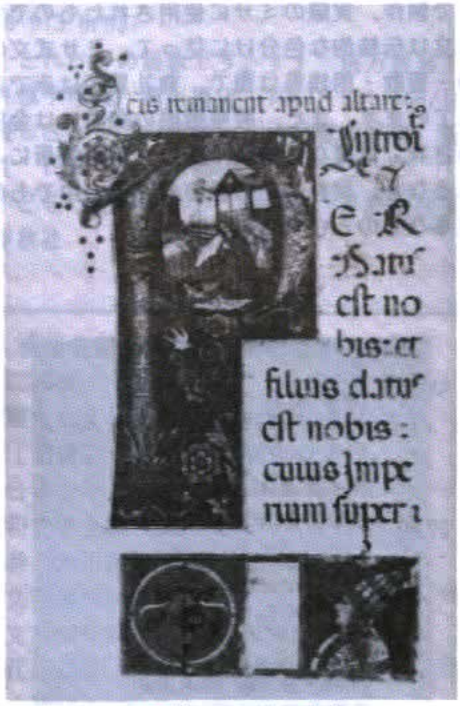
No.32

図書館だより

'88.7

『アレクサンデル六世 クリスマスミサ典礼書』

15世紀末写本の複製本
日本版：岩波書店　1987.12 刊
請求記号　196.1/B65



右図は第8葉裏前ミサ，入祭分の部分

目　次

『アレクサンデル六世　クリスマスミサ典礼書』　同窓会より寄贈 …… 2
アンケート　読書・この1年 …… 3
年間貸出5万冊突破　昭和62年度 …… 6
昭和62年度購入希望図書 …… 7
藤に咲く花　10　ハマナス …… 8
お知らせ …… 8

『アレクサンデル六世　クリスマスミサ典礼書』

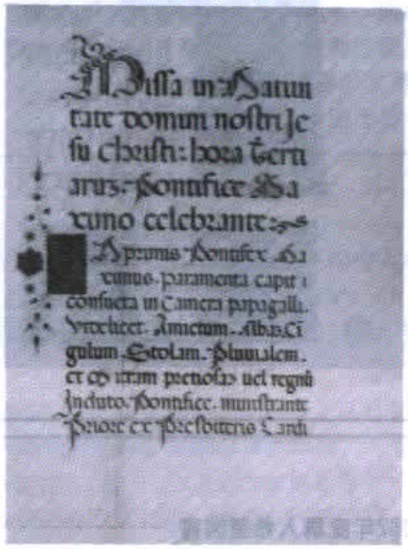
複製本　同窓会より寄贈される

この度，本学同窓会「藤の実会」より，『アレクサンデル六世　クリスマスミサ典礼書』の豪華な複製本が図書館に寄贈されました．原本はヴァチカン図書館所蔵の「BORG. LAT. 425」と称せられる15世紀末期の写本で，教皇アレクサンデル六世(1492-1503在位)の注文によりローマで制作，実際のミサに使用されたものです．

本文は伝統的な色分けに従って，ミサ式文の祈禱・聖歌・朗読等は黒で，典礼規範は赤で書かれています．また，教皇誦唱の楽譜には金箔が施され，華麗な彩飾画，飾り文字が随所にみられるなど，現存のこの種の典礼書の中でも最も見事なものとされています．

今回の複製本は，教皇ヨハネ・パウロ二世の特命によって刊行されているファクシミリ版ヴァチカン写本選集の第63巻に当たり，日本版は岩波書店から1987年12月に刊行されました．典礼史上の資料的価値が高く，かつ芸術的にも貴重な遺産となっている本書の，装丁を除いては原本そのままの完璧な複製です．本文68葉，大きさ460×325mm，総革装．別冊として解説書（日本語）が付いています．

なお，このシリーズでは先に『聖ベネディクト読誦集』が購入されています．



第2葉(本文第1頁)標題とミサの準備冒頭

＜アンケート＞

読書・この1年

この1年ほどの間に読んだ本で印象に残っているものを，という趣旨で，教職員の方々にお尋ねしました．回答が寄せられました分を到着順にご紹介します．原文の表記はほぼそのままに，ただし，体裁は編集の都合上多少変えさせていただきました．ご多忙の折から，アンケートにお答えくださった方々に心よりお礼申しあげます．

酒井英行（国文学科・近代文学　講師）

○『子どもという主題』　本田和子　大和書房　昭62

『ナルニア国ものがたり』，『モモ』などの児童文学を読み解くことを通して，子どもの"成長"ということを考察している．＜「成長」における求心性＞，＜異化される「成長物語」＞，＜家族の崩壊＞などの章が面白い．

○『異文化としての子ども』　本田和子　紀伊国屋書店　昭57

子どもを＜不完全な発達途上にある人間＞あるいは，＜純粋無垢なもの＞とみる児童観から脱却し，子どもを＜一個の異文化＞としてみつめ，＜挑発者としての子ども＞を探ったもの．

○『ボヴァリー夫人』　フローベール・生島遼一訳　新潮文庫

学生の頃読んだことがあったが，今年の春休みに読み直してみたら，意外に面白かった．長たらしいところがかえってよい．魅惑的ではあるが空しいボヴァリズム．

○『新しい文学のために』　大江健三郎　岩波新書　昭63

＜神話的な女性像　(一)，(二)＞が特に面白い．

○『東京漂流』　藤原新也　情報センター出版局　昭58

＜過去1年ほどの間＞に読んだ本というアンケートからは外れるが，学生に読んでもらいたい本として挙げておきます．

柳本睦子（家政科・被服　助手）

普段あまり本を読んでいないので，参考になるかどうか心配ですが，お答えします．

「微熱少年」　㈱新潮社　松本隆　1985年11月20日

映画化されるというので読みました．さすが作詞家だなあとおもわせる，言葉のひとつひとつが素敵な物語です．

「別れぬ理由」　㈱新潮社　渡辺淳一　1987年5月25日

これも映画化されるというので読みました．読んでると，どうしても自分の両親と比べてしまい，思わずうなってしまったり・・・，親の行動観察が楽しくなる一冊．

「ホテル」　関口誠人　㈱CBSソニー出版　1987年3月27日

「青春ちゃん」　関口誠人　㈱CBSソニー出版　1988年1月14日

どちらも元・ロックバンドC-C-Bのメンバーだった人が書いたものです．短篇集です．本嫌いの人でも軽い気持ちで読めてしまう軽い内容です．が，ジーンとする話もあったりします．

「ことわざ絵本　1・2」　五味太郎　岩崎書店

私は児文研に入ってましたので，五味太郎の作品は言葉の遊びがおもしろくて，よく読んでました．この作品は大人でも充分楽しめると思います．古いことわざに対する新しいことわざにかくされた，ジョークや皮肉は，むしろ大人じゃないと理解できないでしょう．

佐々木隆介（一般教育・社会学　教授）

1．『一日一言　一人類の知恵一』　桑原武夫編　岩波新書　262　昭和31年

2．『中国の歴史』上中下　貝塚茂樹著　岩波新書　D40,41,42　1964,1969,1970

3．『この人　古田秀雄』　永井龍男著　文春文庫　1987

・「広告の鬼」と呼ばれた古田の生涯を通して，戦後のマスコミの発展を知ることができる．

4．『映画監督　山中貞雄』　加藤泰著　キネマ旬報社　昭和60年

・「人情紙風船」を最後にして，若くして戦場で死んだ，山中の映画づくりにかけた熱情が，当時の世相を背景にして描かれている．

5．『移動図書館ひまわり号』　前川恒雄著　筑摩書房　昭和63年

・図書館人の目を通してみた，住民と図書館とのかかわりが生き生きと記されていて，示唆されるところが大きい．

後藤昌彦（保育科・社会福祉　教授）

1．家族・氷河期　三善英毅，平見修二　筑摩書房　1985

先進国（北欧，西独，伊，米）の家族の風景をリポートしている．豊かな国の家族から，急速に温かさが失われているのはどうしてなのだろうか．この視点は家族の著しい欧米化を経験している今日の日本人にとって重要である．

2．ナイジェル・ハントの世界　ーダウン症の青年の手記ー　ナイジェル・ハント著　中村陸郎訳　偕成社　1985

ダウン症と診断されたナイジェル・ハントが書いた1万2千語におよぶ手記．教育は不可能とされるダウン症に対する従来の見方を反省させられる．

3．ルポ老人病棟　大熊一夫著　朝日新聞社　1987

身体的・精神的機能が著しく低下し，家庭で生活することができなくなった老人は，老人施設に行かざるをえない．今日このような老人の多くは老人病院で老後生活を送っている．報告されている老人病院の実態はショックである．わが国が標榜する福祉国家がいかに薄べらなものか改めて知ることができる．

4．救護施設　一番ヶ瀬康子　ミネルヴァ書房　1988

「人間のごみ箱」といわれた救護施設を紹介している．近代化にともなって消滅するはずであった救護施設が増加している．福祉施設の細分化，専門化が進行する中で種々雑多な入所者をのみこむ施設の実態を知ってほしい．

永田淑子（学長　英文学科・エリザベス朝文学　教授）

○女性であること　ポール・トゥルニエ　ヨルダン社　1981年

○日本人の信仰心　磯部忠正　講談社　1983年

○２月革命の77時間　セルソ・アル・カルヌーガン　勁草書房　1988年

○旧約聖書の世界　池田裕　三省堂　1982年

○タゴール著作集　第1巻　詩集Ⅰ　タゴール　第三文明社　1981年

阿部薫（法人事務　職員）

①ジェシーとサリー　ガイジン力士物語　ロバート・ホワイティング　訳松井みどり　㈱筑摩書房　1986.11.10

ハワイ出身のスモウレスラー　ジェシー（高見山）とサリー（小錦）のインタビュー形式の話，根性ものの伝記ではない．

②貧民夜想曲　関川夏央　㈱双葉社　1986.11.15

読みおわった時，とても旅行にいきたくなる本です．

③「桃尻語訳」枕草子　上　橋本治　河出書房新社　1987.9.10

邪道ですが，「春って曙よ」の訳は正しいと思います．

④赤ちゃん漂流　船越健之輔　㈱主婦の友社　62.9.26

菊田医師赤ちゃん斡旋事件，の背景と経過，そしてその後のルポ．

⑤ルポ老人病棟　大熊一夫　朝日新聞社　1988.1.31

多量の薬物投与とおざなり看護でねたきり老

人がつくられる?! ボケ老人の場合，夜，徘徊をさけるため，手足をしばって就寝させることもあるとか．

小杉ゆう子（図書館 職員）

『優駿』 上・下 宮本輝 新潮社 1986

『アルジャーノンに花束を』 Keyes, Daniel 早川書房 1985

前者はもう改めて紹介することもないと思います．映画と本と比較してみるのも面白いのではないでしょうか．後者は，ＩＱ70の青年が手術によって天才になり，やがて急速に知能を失っていくというストーリーのＳＦ小説．どちらも軽い読物としておすすめします．

『東京に原発を！』 広瀬隆 集英社 1987

最近は学生の間でも原発に対する関心が高まっているようで，同著者の『危険な話』は２ヶ月後まで予約でいっぱいです．

『犬の気持ちがわかる本』 主婦の友社 1986

犬の飼い方の本です．特に印象に残ったというわけではありませんが，図書館にはこんな本もありますという意味で．

『花ことば 花の象徴とフォークロア』 1～2 春山行夫 平凡社 1986

花ことばとその起源，意味などを２冊にまとめたものです．

以上，全て図書館にある本です．

江口道子（食堂 栄養士）

①「薬の選び方便覧」 高橋晄正 農文協 昭和62年8月

薬剤の裏側を見たようで，安易な服用は不必要，不利益と思った．

②「心臓病棟の60日」 平澤正夫 新潮社 昭和62年10月

夕刊１面トップで納豆は血栓予防に良いと出た．私は血栓に納豆は良くないと聞いていたのでショックを受け，疑問を持ちつついた．この本の中で心臓病のある種の薬と納豆は血液凝固を防ぐため食さない方が良いことを読み胸のモヤモヤがはれた．

③「医原病」

古い本ですが，医師の人為的ミスに私が遭遇した時，どんな手段を考え選択すべきか日頃からの心がまえ悲しいかな必要なんでしょうか．

④「どんな薬が安全か」 高橋晄正，平澤正夫 ＫＫベストセラーズ 昭和51年8月

病院から処方された薬や注射で引き起こされた不幸な事故，背筋が寒くなります．

⑤「からだの科学」 131 狭心症と心筋梗塞 日本評論社 昭和61年

この本は病態がくわしく書いてあり，最近の話題ものってます．ミニ・コーナーの部分も読むと栄養指導のヒントになりそうで楽しみにしている部分です．

池野洋子（教務課 職員）

「パレスチナ」 広河隆一著 岩波書店（文庫）1987年

ーパレスチナ問題の輪郭ー

「最底辺」 ギュンター・ヴァルラフ著 アサコ・シェーンエック訳 岩波書店 1987年

ー外国人労働者に変装したジャーナリストが西独の移民労働者の現実を暴露した潜入記ー

「激動の世界を駆ける」 長倉洋美著 講談社（文庫） 1987年

ー世界の紛争地を駆け巡ったフリーカメラマンの体験記ー

阿部典子（家政科・調理学 教授）

1．鈴の鳴る路 星野富弘 偕成社 62年

2．霊的な出発 高橋たか子 女子パウロ会 60年

3．森 野上弥生子 新潮社 60年

4．喜びの時，悲しみの時 井手雄太郎 中央出版社 59年

5．忘我の記 中里恒子 文芸春秋 62年

年間貸出冊数５万冊突破！

―― 昭和62年度　図書館繁盛記 ――

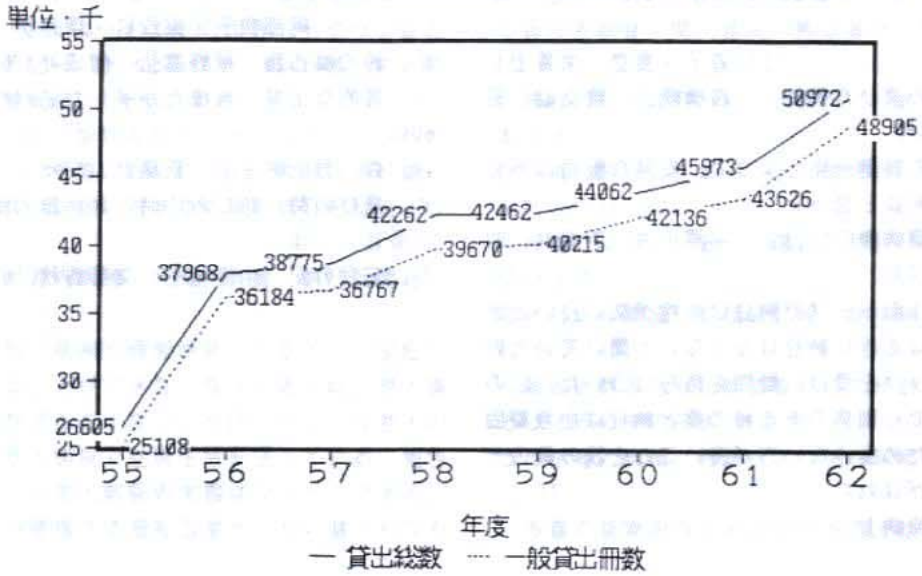
昭和62年度の貸出総冊数がついに5万冊を超えました．前年度に比べ約5300冊の増加，率にして10%以上の急成長です．これは昭和62年の4月より，従来の貸出制限冊数3冊を5冊に改めるなど，学生の貸出条件を全体的に緩和したためと考えられます．

貸出の諸条件が違いますから，数字の上だけの単純な比較は慎むべきですが，当館は他大学に比して利用の多いいわば繁盛している図書館と言えます．それは単に5万冊という総数では・なく，学生の貸出登録率が全19クラスの中，100%が4クラス，最低でも72.6%，平均して94.4%という高率であり，学生一人当りの年間貸出冊数が28.1冊であること（いずれも62年度）などに現れています．

グラフをご覧いただければ分かりますが，昭和55年度以降貸出冊数のカーブには3つの段階があります．最初は56年度で前年度比約38%の伸び，次に58年度で同じく約15%の伸び，そして今回62年度の約11%の伸びです．昭和56年度はそれまでの一部開架から全接架に変わったこと，58年度はブック・ディテクションを設置して入退館をスムーズにしたこと，そして62年度は最初に述べたように貸出条件の緩和によるものと考えられます．更にそれらの基礎として年々資料が増加充実してきていることがあります．利用者側からみると，これらはいずれも管理される要素が弱まり，利用がより自由で直接的になったとの感触があったのかも知れません．図書館側としては，利用者の利益にと考えたことが目に見える結果として現れたことを喜び，また，利用者の敏感な反応に驚きもしました．

大学図書館は研究・教育・学習のための重要な場です．利用が伸びたことを，むしろ恐れを抱いて受けとめ，今後のよりよい図書館づくりを考えて行きたいと思います．

昭和５５年度以降貸出冊数推移



こんな本が入りました

―― 昭和６２年度購入希望図書より ――

昨年度は全部で240件の申し込みがあり，その中162件が購入されました．以下にその一例をご紹介します．今年度も沢山のお申し込みをお待ちしています．

『愛と幻想のファシズム』 全２巻 村上龍著 講談社 1987 913.6/Mu43

『ニューウーマン』 千葉敦子著 三笠書房 1987 159/C42

『「ん」まで歩く』 谷川俊太郎著 草思社 1986 914.6/Ta88

『危険な話』 広瀬隆著 八月書館 1988 543/H72

『ヴェクサシオン』 新井満著 文芸春秋 1988 913.6/A62

『笑府 ―中国笑話集―』 全２巻 馮夢竜撰 松枝茂夫訳 岩波文庫 1987 927/F97/1-2

『なんてすてきなケーキデコレーション』 橋上とき代著 文化出版局 1986 596.6/H39

『言いたいことがありすぎて』 丸木俊著 筑摩書房 1987 049.1/Ma54

『現代の世界文学 オクトバー・ライト』 ジョン・ガードナー著 宮本陽一郎訳 集英社 1987 908/G34/G22

『黄色い髪』 干刈あがた著 朝日新聞社 1988 913.6/H57

『［とれたての短歌です。］』 俵万智著 浅井慎平写真 角川書店 1987 911.168/Ta97

『優しさとしての教育』 灰谷健次郎著 新潮社 1988 914.6/H15

『子どもの犯罪と死』 山崎哲，芹沢俊介著 春秋社 1988 369/Y48

☆特別展示ご案内

新着書展示コーナー横に，ガラスケースが置かれた特別展示コーナーがあるのをご存じですか？ そのときどき話題になっている事がら等をテーマにし，当館所蔵の資料を紹介しています．今年度の予定は次のとおりです．

・女性について
・全学講演会講師 池田裕氏 プロフィールと著作

以上終了

・留学
・集中講義講師 プロフィールと著作
・就職・経済・流通等
・ホスピス・難病・死の問題
・染織
・卒業記念講演会講師 プロフィールと著作

☆小笠原克先生より資料寄贈される

この度，小笠原克先生より沢山の資料が寄贈されましたので，ご披露いたします．

［図書］

新日本文学全集 全38巻 集英社

昭和文学全集 ﾙﾋﾞｰ･ｾｯﾄ，ｻﾌｧｲｱ･ｾｯﾄ 各20巻 角川書店

新文芸思想講座 全10巻 文芸春秋

新文芸創作講座 全6巻 厚生閣

現代詩講座 全10巻 金星堂 等

［雑誌］

「文学界」「新潮」「改造文芸」など22種553冊．これで既蔵分の欠の中昭和20年代の部分が相当埋まりました．「話」(文芸春秋社 昭8.5～15.5)は，当時の総合読物雑誌で意外な執筆者の顔ぶれに驚きます．全88冊の中84冊の大揃い，他ではなかなか見られない貴重なものです．

藤に咲く花 10

ハマナス
（ハマナシ Rosa rugosa Thunberg）

バラ科の落葉低木．海岸の砂地に生育し，しばしば大群落をつくる．枝にはとげが密生している．よく見かけるのは紅色の花であるが，白い花を咲かせるものもある．「北海道の花」にも指定され，道内のあちこちで，その群落を見ることができる．学園構内では，中・高校玄関の横に，他の植物の陰で人知れず咲いている．花は香水に，果実はジャムにつくられ，根の皮は秋田の八丈縞の染料に用いられる．「ハマナス」の名は，その実の形が梨に似ていることから浜の梨，「ハマナシ」と呼んだものが，東北地方でなまったものらしい．

潮かをる北の浜辺の
砂山のかの浜薔薇よ
今年も咲けるや

啄木がうたったハマナスの咲くこの砂山は，今はないという．が，どこか，潮風にときおりゆれて咲くハマナスの浜辺を，波の音だけを聞きながら，歩いてみたいものである．

写真は『北海道植物図鑑』 上 原松次著 噴火湾社 1981 より転載．

参考資料 『北海道の森林植物図鑑 樹木編』 北海道国土緑化推進委員会編 1976 472/H82
『啄木・賢治 青春の北帰行』 小松健一写真・文 PHP研究所 1987 911.162/I76k
『花ことば』 引田茂著 保育社 1984 （カラーブックス） 627/H57

★お知らせ

夏季休暇中の開館・休館は，下記のとおりです．詳しくは掲示板をご覧ください．

＜開館＞ 7月28日～8月2日，8月17日～9月3日，9月12日～9月19日

＜休館＞ 8月3日～8月16日，9月5日～9月10日

開館時間 9時30分～16時 （但し土曜日は15時30分まで）

藤女子大学
藤女子短期大学 図書館だより 第32号 1988.7.20

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-0311㈹ FAX 011-709-8541(大学庶務課)